

亀山市議会議員 森 美和子 様

## 調査研究報告書

|  |  |
|--|--|
| 会 派 名  | 高島 真                                   |
| 報 告 議 員 名  | 高島 真                                   |
| 調 査 日  | 1月29日                                  |
| 調 査 目 的 等  | 有害鳥獣対策について<br>～大野市の有害鳥獣対策と大野市有害鳥獣処理施設～ |
| <b>研修の概要</b><br>○背景<br>捕獲個体は現地埋設もしくは、切断・冷凍保存後、焼却処分を行っていたが従事者の負担が年々増していたため、おがくずに含まれる微生物の力を利用して有害鳥獣処分の省力化に向けて有害鳥獣分解処理施設（減容化施設）の整備を行うこととなった。<br><br>○事業内容<br>処理計画頭数：400頭/年<br>減容化施設 1式（分解処理装置2台、骨粉碎装置1台）<br><br>○事業費<br>53,011千円（国庫補助額29,156千円 国庫55% 市45%）<br><br>○年間経費<br>約150万円<br>内訳（電気代60万円、倉庫使用料30万円、保守点検60万円）<br><br>○大野市有害鳥獣処理施設<br>この施設は、大野市鳥獣害対策協議会が設置したもので、主に猟友会のメンバーが管理運営に従事している。（日当8,000円）ただし、有害駆除に従事された後の延長で行うため、処理施設の実質賃金の支払いは無しとのことであった。<br>〈参考〉捕獲奨励金・・・鹿：雄雌問わず17,000円、幼獣 10,000円<br>猪：14,000円、幼獣 5,000円 |  |

(続紙)

[メリット]

1. 捕獲従事者の負担軽減
2. 切断、解体せずに処理が可能
3. 鹿、猪以外の鳥類も分解処理が可能
4. 国庫補助金が55%充当できる。(中山間地域所得向上支援事業)

[デメリット]

1. 1頭当たりの分解処理日数が、8日間と非常に時間がかかる。
2. 分解処理装置から出る臭気があるのではないかと(特に夏場)
3. 持込みから大型冷蔵庫への投入、搬出が手作業で負担大きい。
4. 処理能力が、35頭/月、400頭/年で小規模である。
5. 機材が高価である。



分解処理装置



大型冷蔵庫



骨粉碎装置

(続紙)

## 所感

亀山市では、有害鳥獣による農作物や山林の被害は年々増加しており、有害鳥獣駆除による捕獲頭数も増加している。捕獲された有害鳥獣の処理等について、現在、亀山市には処理施設がないことから、今回、先進地である大野市を視察することとした。

大野市は、猟友会会員で構成される捕獲隊員の作業負担の軽減とコスト削減を図るため、全国でも初めて有害鳥獣をまるごとおがくずの微生物の力で分解する有害鳥獣分解処理装置施設を導入している。

当市でもこのような処理施設を設置することが必要であり、設置を検討していくべきである。設置する場合は、亀山市での捕獲頭数など総合的に勘案すると、大野市のような「減容化施設」より、肉と骨を分け、骨、皮、内蔵などを乾燥して焼却処分をする「焼却処分施設」が望ましいと考える。さらには、鹿、猪以外の鳥獣も処理が可能な施設であるとなおよいのではないかと。その他建設条件などにおいては、従事者の作業負担の軽減を考慮した設計であることが重要であると思うが、有害鳥獣の持込み、冷蔵又は冷凍、焼却、骨粉粉碎などの一連の作業を行う中で、夏場の臭気対策が必須条件である。また、焼却処分施設の場合であっても、後の骨等の残骸は、減容化施設と同等に骨粉碎装置の設置が必要である。



大野市役所にて